

福 議 委 号
平成24年11月13日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会
委員長 木 村 隆

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、平成24年9月19日福島町議会定例会9月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第140条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

調 査 事 件	(6) 所管関係施設・事業等の町内視察について
調 査 期 間	平成24年10月30日(1日間)
出 席 委 員	委員長 木 村 隆、副委員長 花 田 勇 委員 平 沼 昌平、委員 加 藤 雅行 委員 藤 山 大、委員 平 野 隆雄
欠 席 委 員	なし
委員外議員	議員 滝 川 明 子
職務のため出席した議員	議長 溝 部 幸 基
出席説明員	町 長 佐藤 卓也、副 町 長 竹下 泰弘 住民生活課長 沢田 勝男、保健福祉課長 工藤 泰 水産商工課長 近藤 勝弘、農 林 課 長 金谷栄一郎 建設水道課長 横内 俊悦
議会事務局職員	議会事務局長 石堂 一志、議会グループ次長 前田 勝広 議会グループ主事 沢田 元気

[委員会意見]

調査事件 6 所管関係施設・事業等の町内施設について

(平成 24 年 10 月 30 日調査)

本委員会が所管する関係施設・事業等の課題・問題点を把握すべく町内視察を実施した。午前中は吉岡温泉総合改修調査委託業務、吉野人見坂船揚場及び吉野新山宅前船揚場現地、福島吉岡漁港倉庫小規模治山工事、福島漁港災害普及工事、横綱記念館展示映像システム更新委託業務、普通河川板橋川土砂撤去工事、丸山団地町営住宅建替事業、新緑公園整備事業、林業専用道路館の沢線 NO5 線改開設工事、ブルーベリー圃場の現地視察を終え、午後から町政執行方針の取り組み状況の確認及び検討会を行ったところであり、その結果における内容は次のとおりである。

【論点とした調査項目】

1. 関係施設・事業等分

(1) 吉岡温泉

今後の当該施設の維持運営に当たり、外壁、屋根等の改修及び湯量調査に基づく温泉設備改修に向けた適切な整備計画並びに入館者増に繋げる対策を示していただきたい。

(2) 船揚場（吉野地区）

現状の消波ブロックは重量も小さく形状もばらばらなものとなっている。過去においても、台風や低気圧の高波でブロックが崩れる同様の被害が発生していることから、従来のような単なる復旧では対応できない状況にあるものと思慮する。背後には、国道もあり、船揚場からの波やゴミで通行に支障を来したこともあり、関係機関との防止対策についての協議に加え、町として現地の状況（海底の地形等）を把握し、当該地区に合ったブロック設置等の対策を積極的に提案していくことも必要と考える。

(3) 丸山団地町営住宅

当該団地の建設計画は、平成 25 年度に残る 7 棟 28 戸を解体し終了する予定となっている。解体後の空き地（未利用地）となる面積は約 6,600 m²と見込まれることから、今後の活用に向けた検討を進めていた

ただきたい。

2. 執行方針の取り組み状況分

(1) いきいき健康福島 21 後期計画

当該計画は平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間の行動計画であり、前期行動計画の最終年度である平成 23 年度中に策定すべきが本来の手続きである。策定が遅れたことの原因を明確にし、事務体制を含めた検証をきちんと行い適切に事務処理を進めること。

(2) タクシー料金助成

平成 24 年 9 月末のタクシーチケットの交付は、対象者 168 人に対し 48 人 (29%) となっている。執行率は、予算額 3,029,000 円に対し支出額 125,490 円で 4.1%と低調な状況にある。交付状況や執行率の現状をしっかりと分析し、本年度の後半と次年度以降の利用促進に向けた取り組みを進めていただきたい。

(3) 粗大ごみの有料化

渡島西部広域事務組合の中で粗大ゴミの有料化をしていないのは、福島町と知内町の 2 町で、松前町と木古内町は既に有料化されており、各町で対応が違うことに疑問を感じることから、構成町の統一した考え方を検討する機会も必要と考える。

(4) 体験型交流プログラム

より充実した道の駅の検討に向けワーキングチームを組織し、食と体験観光プログラムを含めて検討を進める予定とのことであるが、現在の道の駅についての検証とともに早い段階で議会に方針を示していただきたい。

(5) 子ども医療費助成

制度導入前と導入後の医療費の比較と分析が必要と考える。平成 24 年 9 月末の予算執行率が 67.8%となっていることから、インフルエンザ等も考慮し、予算に不足を生じないように適切に対応していただきたい。